

## NCNL 図書館だより

No. 11 May 29 2002

## 大学が開学、そして図書館は新しくなった。

## 図書館長からのメッセージ

大学図書館長 富川 孝子

4月に赴任したばかりですが、看護大学の図書館機能の充実・強化を目指して努力したいと思います。図書館は1つですが、組織としては大学図書館と短大図書館の2本立てとなりました。今は、関谷短大図書館長から教えを受け、ひたすら勉強の日々です。

3月まで在職した大学は全学で5つの図書館をもつ総合大学でしたが、他の学問分野と比べると、看護学の図書は充実していませんでした。看

## 図書館の思い出

学長 中島 紀恵子

近頃は、何かの資料の参考になるものを探すと、いった不純な動機で、本屋に行くことが多い。それでも、“読んでくれ”“手に取ってくれ”と自分を呼び寄せている本にぶつかることがある。目に飛び込んでくるというか、吸い寄せられるというか…。購入後に、ちょっとちがったかなと、少しばかり後悔することもあるが、だからといって、軽い気分でそれを誰かにあげるといふふうにはいかない。多分、多くの人が、他の人から頂いたり、薦められた本が意外なほどつまらなかったり、なぜこの本を私に薦めたのかと一瞬考え込んでしまうというような体験をしていると思う。考えるに、本との感動的な出会いは、今、探し求めている自分のアイデンティティに出会って、沸々と湧き上がってくる喜びによるものなのだろう。

高度成長の臭いもないほどに日本がまだ貧しい頃に私は大学に入学した。大学の設備も新潟県立看護大学に較べるまでもなく「シンプル」だっ

たが、図書館だけは立派だった(1950年中頃の話である)。それは、「名画座」で観た“映画”のように異国的な空気に満ちていて、図書館独特の臭いと共に、色々な種類の本が私を呼んでいた。

「ヨシ、ここの本を片っ端から読んでやる」「図書館利用学生のナンバーワンになってやる」、心の中でそう叫んだことだった。二つの自分との約束は守れなかったけれども、書棚を眺めては、すごいことを考えたり、書いたり、研究したりしている人が、こんなにいっぱいいて、この人たちと何か対話している自分を想像しては密かに楽しんでいて。また、書き手側の傍にいただけで、なんとなく守られているような気分になったものである。

雑誌類はほとんど図書館から借りて読むことに決めていた。なかでも真白い表紙に大きな活字の「中央公論」「世界」や、いかにもそれらしいデザインの表紙のある「文芸」「美術手帖」「婦人公論」は欠かさずに読んだ。図書館の利用の仕方は、いろいろあってよいが、本との出会いもライブの方がよく、その意味で図書館は劇場のような

雑誌類はほとんど図書館から借りて読むことに決めていた。なかでも真白い表紙に大きな活字の「中央公論」「世界」や、いかにもそれらしいデザインの表紙のある「文芸」「美術手帖」「婦人公論」は欠かさずに読んだ。図書館の利用の仕方は、いろいろあってよいが、本との出会いもライブの方がよく、その意味で図書館は劇場のような

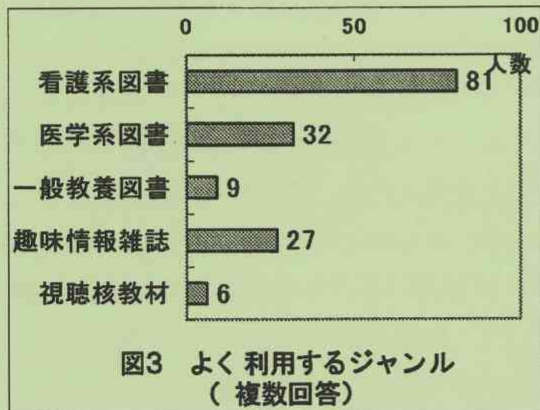
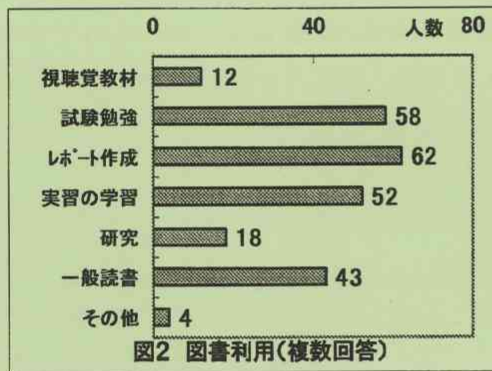
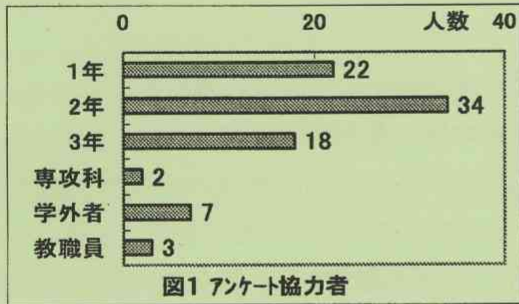


空間といえる。この文を書きながら長い間ひとり  
で図書館にいる時間を楽しむ贅沢を味わえてい  
ないことに気づいて愕然としている。

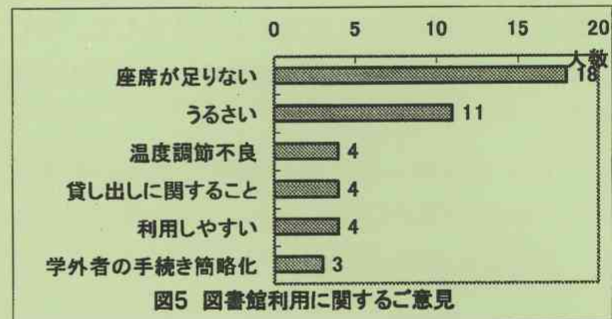
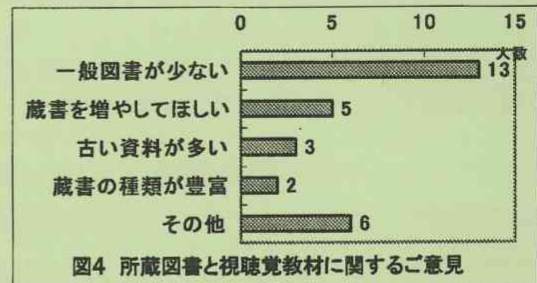
\*\*\*\*\*図書館利用者のアンケート結果（平成14年2月実施）\*\*\*\*\*

図書館では利用者の皆様が親しみをもち、利用しやすい図書館を目指しています。しかし、平成13年度は平成12年度に比べて図書館の利用者数・貸出冊数が減少していました。そこで、今後の図書館運営の参考にするために、来館者に対してアンケートを行ったところ、86名の方にご回答いただきました。アンケートにご協力いただいた方々に大変感謝いたします。

\*『アンケート協力者の内訳』『図書館利用』『よく利用するジャンル』は以下の通りでした。（図1,2,3）



\*『所蔵図書や視聴覚教材』『図書館利用』に関するご意見は以下の通りでした。（図4,5）



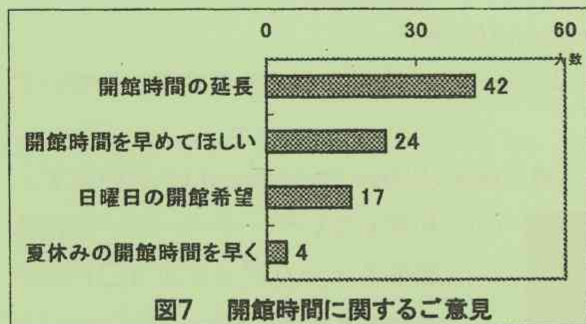
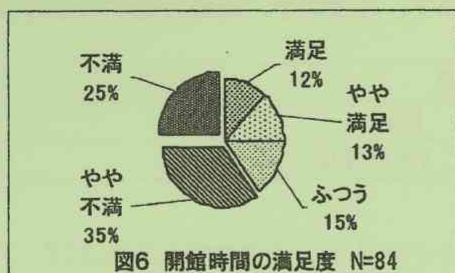
ベストセラーなどの一般図書を増やして欲しいというご意見が多くありました、本学の図書館は看護・医療に関する専門書籍を完備することを第一の目標にしていますが、利用者の方のリクエストにお答えすることができますので、ご希望の図書は「購入希望図書リクエスト」用紙でのリクエストをお待ちしています。また、看護大学への移行により、最新の書籍が増えましたのでどうぞご利用ください。書籍が増えることで書棚が増設されて、座席が不足しているというご意見が多くありご迷惑をおかけしています。すぐに座席を増やすことはできませんが、座席を確保したまま不在になっていることがあるようですので、皆さんのご協力をお願いいたします。そのほかの図書館の利用環境についても改善に向けて今後検討していきたいと思っております。

\*『図書館の開館時間の満足度』『開館時間に関するご意見』は以下の通りでした。（図6,7）



いても改善に向けて今後検討していきたいと思  
います。

\*『図書館の開館時間の満足度』『開館時間に関  
するご意見』は以下の通りでした。(図6,7)



図書館の開館時間については、多くの方が『開館時間の延長を希望している』ことがわかりました。看護大学に移行するにあたり、平日の開館時間が朝9時から夜8時30分に1時間延長されます。また、4月から図書館司書が2人に増えますので、図書の貸出しがスムーズにでき、皆様のご質問にもお答えできるように準備をしています。

その他、「職員の対応が冷たい・怖い」「職員の話し声がうるさい」「職員の事務机での昼食をやめてほしい」などの意見があり、関係職員で話し合い、改善努力するように努めたいと思っております。これからも多くのご利用をお待ちしております。(前委員 大久保)

## 「図書館」はここが変わった！

### その1：開館時間

平成14年4月から月曜日～金曜日の開館時間が下記のとおりとなりました。今までより閉館時刻が1時間延長されました。

月曜日～金曜日：午前9時～ 午後8時30分  
土曜日：午前9時30分～午後4時30分

### その2：オンライン文献検索データベース

今まで本学で利用できるオンラインの文献検索データベースと言えば、学内LANによる医学中央雑誌CD-ROMか、国立情報学研究所の情報検索サービスを図書館職員が代行検索する方法のどちらかでした。

大学開学に伴い、平成14年度からは下記のデータベースが新たに利用可能となりました。どちらも外国の文献検索データベースです。外国の文献を調べるときにご利用下さい。

#### ① データベース紹介

CINAHL	看護・医療・生物医学・健康に関する雑誌約800誌と、アメリカ看護協会、アメリカ国立看護連盟の出版物についての索引と抄録を収録しています。さらに書籍・パンフレット・AV資料・学位論文・会議録などの索引も収録しています。 多彩な資料が収録されていること、データの項目数が長いこと、シソーラス(検索のための用語(統制語))に看護でよく使われる語が多く含まれていることが特長です。	
	収録範囲	1982～現在
	データ形式	書誌情報 + 抄録 + フルテキスト(一部)
	全レコード数(追加件数/年)	45万件以上(3万件以上/年)



PsycINFO	心理学関連文献の書誌情報と抄録を幅広く収録する国際的なデータベースです。情報源は、世界 45 カ国、30 以上の言語で書かれた雑誌論文、学位論文、単行本、レポートなどで、特に雑誌論文については、1887 年まで遡れるものもあります。また、医学、精神医学、教育、ソーシャルワーク、法律、犯罪学、社会科学、組織行動学などの分野からの関連文献も提供します。	
	収録範囲	1887 年～現在
	データ形式	書誌情報 + 抄録
	全レコード数 (追加件数/年)	180 万件以上 (8 万件以上/年)

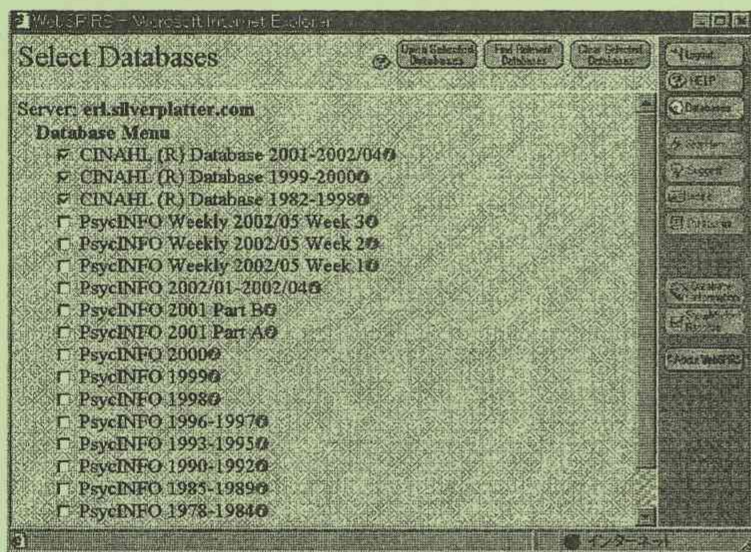
## ② アクセス手順

(1) 上記データベースには学内からのみアクセス出来ます。インターネットブラウザを立ち上げ、アドレスに下記 URL を入力して下さい。

<http://spweb.silverplatter.com/c169984?>

必ず最後の「?」マークも付けて下さい (図書館のホームページからもリンクする予定ですのでいずれそちらからもアクセスが出来ます。)

(2) 下図の画面が出てきます。この画面を、「データベース選択画面 (Select Databases)」と言います。



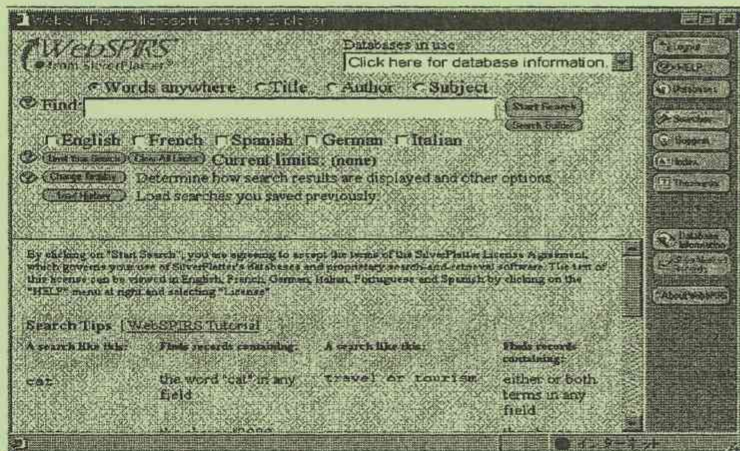
(3) 利用したいデータベース・年代名横のチェックボックス (□) をクリックします。

(4) 画面上の「Open Selected Databases」ボタンを押すと、左下図の検索画面に変わります。

(5) 「Find」横のスペースにキーワードを入力し、右の「Start Search」ボタンを押すと検索が開始されます。

(6) 途中でデータベースを変更したいときは、画面右の「Databases」ボタンを押すと、データベース選択画面に戻ります。

(7) 検索を終了するときは必ず画面右上の「Logout」ボタンを押して下さい。ブラウザの「X」マークで閉じってしまうと、サーバーはアクセスが終了したことを認識しないため、その後しばらくアクセスしたままの状態になります (再ログインしようとしても「アクセス数オーバー」の



表示がされ、ログイン出来ません)。特に CINAHL の場合は同時アクセス数が 1 人と限られているため、しばらく誰も使えない状態になってしまいますので、必ず「Logout」ボタンを押して終了して下さい。

より詳しい検索方法は、下記 URL で説明されていますのでご覧下さい。

<http://webspirs.kinokuniya.co.jp/webspirs42/toc.html>



### その3：書架、パソコンの増設

図書館では昨年度から4年計画で一万冊の増書を予定しています。それらの図書を並べるために約九千冊分の書架を増設しました。利用者が図書を自由に手にとって読むことが出来ることを第一に考えて増設しましたが、そのために閲覧席を減らす結果となってしまいました。利用者の皆様にはその点で不便をおかけすることになりました。申し訳ありません。

利用者用パソコンが2台増設されました。場所は階段のそば、移動式書架への入口になります。この2台はDVDを見る事が出来ます。映画のDVD

を数本購入しましたので、こちらのパソコンで閲覧して下さい。またそのうち1台では「現代日本人名録 2000 年版」も検索できます。「ViewIng」のアイコンをダブルクリックして下さい。

今後これらのパソコンには「国立国会図書館所蔵雑誌記事索引」1975 年～1994 年版（学術雑誌や紀要等から収録）や「大宅荘一文庫雑誌記事索引」1998 年版～2000 年版（週刊誌、女性誌、総合月刊誌を中心に収録）や「朝日新聞記事データベース (CD-HIASK)」1985 年～1991 年版を検索できるように整備していく予定です。

### その4：司書の増員

4 月から飯塚司書が勤務することになりました。勤務時間は、月～金曜日の正午～午後 6 時 45 分までです。少ない時間ですがこれからは午後 5 時以降も司書が皆さんの質問に対応出来ますので、

気軽にご質問下さい。まだ新人なので、不慣れな面もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

### 連載企画 1. 書評

#### 落合恵美子著『21 世紀家族へ（新版） （有斐閣選書）

本書は、家族社会学者である著者が、女性学、家族史、歴史人口学を駆使しながら、自身の体験をも交えながら、明快な切り口で家族を考えさせる書である。やさしい口調で語り掛けるような記述であり、大変読みやすく、社会学専門書にはない親しみやすさがあることから学生諸君に一読を薦めたい。

少子化、核家族化などにより家族の形態が変化し、それに伴って家族の機能が変わり、家族の価値観が変容しつつある現代の家族は“家庭崩壊”とか“家族危機”と問題視されることが多い。この場合の崩壊という言葉の適切性はさておき、筆者は崩壊以前の家族のあり方を普遍的な家族像であるかのように、錯覚したり、思い込んでいたりすることこそ、問題であると指摘する。わが国において、収入を得るために外で労働する夫と、家庭内で家事と育児を担当する妻と子どもという組み合わせが一般的になったのは戦後のことである。人口増加と急速な経済復興の時期に必要

#### 家族の戦後体制の見かた・越えかた』 請求記号：367.3・O15

講師 熊倉みつ子

から生まれた家族形態であり、一時的な現象と捉えるべきだとの考え方である。家族とは、変動する時代や社会を映して変化しつづけるものであると言う。

「女はなんで主婦なんだろう？」という疑問の答えを見つけたくて、家族社会学の研究を続けていると言う筆者は、本書の第一章を「女は昔から主婦だったか」で始める。

そして、ウーマンリブや、フェミニズム、ニューファミリー等を時代の変遷と共に取り上げ、その中で家族がどう変化し、どう論じられてきたかを解釈する。そして、第9章では、少子化の結果としての、一人っ子同士の結婚による家系の双系化という現象を論じ、日本人にとっての家、夫婦別姓、親との同居、別居、近居等に考えを進めている。第10章は「個人を単位とする社会」である。これまでの社会は家族を基礎単位とする社会であり、標準家族という行政用語の上に組み立てられた雇用システム、税制、年金システムであっ



たが、家族形態の変容する現代では、個人を基礎単位とする社会に変化しつつあると述べ、個が独

立した家族像を提示している。

## 連載企画 2. エッセイ

### 私 と 本

#### 私と本

短大看護学科3年 安藤久美子

早いもので、入学してから二年が経ちました。我が校の図書館に初めて入った時には、「さすがに、難しそうな看護の本ばかりだな」と感じたのを覚えています。そんな私が最初に借りた本は、佐々木倫子さんが著者である『おたんこナース』という本です。この本を読まれたことがある方は、案外多いのではないのでしょうか。白衣姿の愛らしい絵と、親しみのもてる題名に惹かれ、手に取った一冊でした。最近、医療現場を舞台にしたドラマや漫画が増えてきていますが、この本も若手ナースの奮闘ぶりを、生き生きとしたタッチで描い

た漫画です。主人公は、多少ドジな所もありますが、明るく、芯の強い女性です。患者さんと関わる中で、信頼関係を築くことの難しさや、自分の未熟さを痛感する毎日。しかし、決して逃げ腰にならず、じつくりと患者さんと向き合っていこうとする彼女のことが、私は大好きなのです。彼女は、私の密かな目標でもあります。「ちょっと頼りないナースだけど、あのナースの顔を見ると元気がでちゃうね」患者さんに、そうささやかれるようなナースになりたいものです。この本を読まれたことのない方は、機会があればぜひ読んでみてください。きっと、お気に入りの一冊になると思います。

#### 図書館の歩き方 ～私の場合～

短大看護学科2年 本田智子

小、中、高校と、今までに数えるほどしか図書館を活用したことがない私にとって、ただ「きれいな図書館だな～」という印象しかなかったこの図書館。しかし入学してみると、授業で出される多くの専門的な課題のためにしょうがなく図書館を訪れて、らしくもなく調べものを始める。これが私の図書館への第一歩でした

入ってみると、この図書館にはいろんなものがありました。医学や生物学、宗教、文学など看護に関係する専門的書から、「おたんこナース」や「ナースマン」、オレンジページ、*komachi* まで幅広く多くの本が並び、一つの内容でも、細かいものから大雑把なものまで様々です。ですから私は

課題のたびごとに、図書館をぐるぐる回りながら、自分にとって看護を学んだり、調べたりするにあう本を一つ一つ見つけていきました。それは自分だけの本を見つけているようで、思ったより楽しい作業でもありました。他にも、資料としてのビデオは演習前には非常に役に立ち、新聞は、1人暮らしの私にとって貴重な情報源になりました。そんなことをして私は図書館を歩いています。正しい活用の仕方ではないかもしれませんが、これからもわたしはこの図書館でしか学べないことしっかりと学びながら、まだ見ていない多くの知識に触れていきたいと思っています。自分なりの図書館の楽しみ方を見つけること。それがわたしにとっての図書館の歩き方です。あなたはどうか図書館を歩いてみますか？

#### 蔵書目録への入力内容の変更

大学開学に伴い、蔵書目録(OPAC)に登録する図書・雑誌量ともに増えました。そのため、今までと同じ項目をすべて入力し続けると利用者の手元に資料が届くまでに時間がかかり、他の作業にも支障が出てきました。そこで入力内容を一部減らすことにいたしました。下記の2点については今までOPACで検索が出来ましたが今後新着資料には入力されませんのでご注意ください。

ただし、いずれも『医学中央雑誌』で検索できますのでそちらをご利用下さい。

1. 看護系雑誌の特集記事の各論文…平成14年5月号からは特集名までの入力になります。
2. 『日本看護学会論文集』の各論文…第33回(2002)から入力しません(第29～32回まで入力済)。

#### <<編・集・後・記>>

大学が開学して毎日が慌しく過ぎていきます。短大のあののんびりとした空気が懐かしい気がします。早く「図書館だより」で、新たに増えた機能・サービスを紹介しなくては・・・と思っているうちに5月も終わりになっていました…。ですが、甲斐(?)あって、本号は初・増ページでお届けします。

Windows95を使っていますが、編集の際に何度も「強制終了」の目に合ってしまった。苦心した図書館だよりの御意見御感想をお寄せ下さい。(Y) e-mail: tosyo@niigata-cn.ac.jp

図書館だより 第11号  
平成14年 5月29日発行  
編集：図書委員会  
発行：新潟県立看護大学図書館  
新潟県立看護短期大学図書館